

看護部
だより

ナースキャッツ

No.11

新年度教育体制は こう変わります!



前教育担当師長 平川元目

当院の現任教育体制は、昭和60年より教育活動の組織化に向け検討を行い、61年から教育活動を実施しました。教育カリキュラムの改定や医療・看護の変化に応じながら、また患者の安全と看護の質の向上を教育の主眼として活動してきました。今までは、新人看護師を一人前にするため3年間で育てる学習コースと卒業後4年目以上の生涯学習コースとで活動してきました。

看護方式は固定チームナーシングを導入していますが、働く職員の変化で導入当初の目的が薄れてきました。そこで、看護方式と教育体制の関係を直視し、20年度から、固定チームナーシングラダーを導入していきます。また、研修が現場で生かせる内容であり、現場と教育が一体化しているという実感を職員が持てる

ことが必要です。

今後は、チームで新人を育てる“意識した教育体制を検討していきます。現在のプリセプター制度を変更し、チーム内で指導者と相談役をつけます。色々なことに気付いて学んで欲しいため、指導者は中堅以上のベテラン看護師にお願いしていきます。十分な経験を次の世代に是非伝えていただきたいと思えます。

これまでの検討で決定していることは、①固定チームナーシングの教育と評価・フィードバック②患者の安全保障(こと)③CSマネジメントを看護部の方針と合わせて教育の3本柱とします。自信を持って看護できる看護師を育てるために、段階別に適した教育を実施していきます。

新年度への抱負



副院長 松井とも子

診療報酬マイナズ改訂の年といわれた平成18年度から2年間が経過し、相変わらずの医師不足や混沌とした医療体系の変化を目的の当りにしながら、何とか看護部の礎を築きたいとひたすら走ってきた思いがします。

入院患者の急激な減少や増加、近年にない産育休者の増加や病院の合併問題等、浮上してくる目の前の大きな課題を如何にクリアするかということがいつもありました。しかし、今後

の病院の方向性を見据えながら、今の看護部に必要なことは、柳のようにしなやかで強い集団であること、即ち、どんな時でも、自信をもって看護を提供することの出来る人材を育成すること”と捉えました。看護部の教育体制の変革やCSマネジメントへの取り組み、患者様への安全保障に向けて4月から新体制でスタートしていきます。皆様への応援・ご協力をお願いいたします。

